

Ⅲ 多様なサービスの充実と展開

1 住み慣れた地域や在宅でその人らしく最期まで過ごせるような選択肢としての地域ニーズに即した「ラウンド・ケア・サービス」を展開します

(1) ラウンド・ケア・サービス（定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業）の実施

平成30年度に開設した3事業所（ことぶき苑・朝陽ヶ丘荘・丹寿荘）については、地元自治体や地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、民生委員等へ事業説明や情報提供、地域へのPRを行い利用者確保に努めます。

	施設名	内容
利用者確保	ことぶき苑	累計10名確保
	朝陽ヶ丘荘	
	丹寿荘	
新規開設	洲本市五色健康福祉総合センター	2019年度中の開設をめざす

(2) 連携事業所（訪問介護・訪問看護）・対象エリアの拡大

	施設名	対象地域
連携事業所 対象エリア 拡大	ことぶき苑	日高町内
	朝陽ヶ丘荘	南光町方面
	丹寿荘	春日町方面

2 障害者の高齢・重度化に対応したグループホームを創設し、いつまでも地域・施設生活が継続できるよう取り組みます

(1) 整備・改修等を計画的に実施

施設名	建設予定地	内容
五色精光園	くにうみウヰレッジ	○建築工事
三木精愛園	本体施設敷地内	○新規グループホーム開設に向けた基本プランの作成 ・グループホーム開設から14年が経過し、利用者の高齢・重度化が進み、住居の老朽化も課題となっている
ひまわりの森		○利用者の高齢・重度化に伴う、浴室、トイレ等の改修 ・レジデンスA・B・C棟の改修等
赤穂精華園	さくらハウス	○供用開始 ・さくらハウスをグループホームとして改修し、有年グループホーム利用者の住み替えを実施
	保母宿舎跡地	○基本プラン作成 ○あり方検討委員会の定期開催 ・「従来型」から「日中サービス支援型」に転用可能な建築形態の検討 ・市内グループホーム（はあと、みかん、ともだち、あかほ）の住み替えを検討

(2) 高齢障害者の高齢施設（特養）での積極的な受入推進



くにうみの里	平成 30 年度	平成 31 年度
高齢障害者の入所者数	6 名	10 名

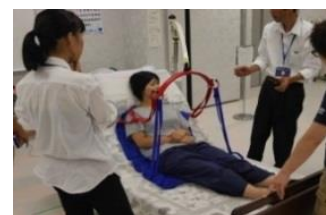
※（参考）平成 30 年高齢障害者の待機者数は 3 名

3 利用者の高齢・重度化に対応するために、「ノーリフティングケア」「口腔ケア」「看取りケア」等の利用者支援を充実します

(1) ノーリフティングケアの推進

- 介護職員の腰痛予防や介護負担軽減を図るため、ノーリフティングケア（持ち上げない介護）の定着・実践に取り組む（全施設共通）
- 重点研修（事務局主催）及び、「持ち上げない介護推進プロジェクト」（まち研主催）の実施
- 「ノーリフティング宣言」：先行モデル施設の万寿の家、くにうみの里で宣言

研修名	施設名
重点研修	朝陽ヶ丘荘、たじま荘、丹寿荘
ノーリフティング宣言	万寿の家、くにうみの里



- 各圏域に「高齢・障害施設普及推進拠点施設」を設置し、「普及推進拠点施設」が圏域の高齢、障害施設へノーリフティングを普及させ、技術の向上を図る

圏域	普及推進施設
神戸	万寿の家
淡路	くにうみの里
但馬・丹波	たじま荘※2020 年度～

(2) 口腔ケアの取組

- 口腔ケアの取組を積極的に進め、「利用者の健康増進」「誤嚥性肺炎ゼロ」をめざします。

ア 口腔ケア研修会等へ参加し知識・技術の向上を図る（高齢施設・障害施設）

- 障害施設（モデル施設：五色精光園）

- ・「口腔ケア 3 技法」の実践

五色精光園で平成 30 年度取り組んだ「簡単口腔ケア週 2 回法」「口腔内臓器つばマッサージ」「手技で行う咽頭ケア法と排痰」の 3 技法に係る研修を障害全施設で受講し実践

- ・「口腔ケアマイスター」の育成
(障害施設の育成数)

	講座名	養成人数
初級	簡単口腔ケア週 2 回法	1 名
中級	口腔内臓器つぼマッサージ法	1 名

○高齢施設（モデル施設：たじま荘）

- ・ K T（口から食べる）バランスチャートによる評価の実践
- ・ 口から食べることの評価を充実し専門職（歯科医師・歯科衛生士・栄養士・看護師・支援員等）によるチームアプローチを実践

イ 歯科衛生士の資格を持つ支援員の雇用を促進し、利用者への口腔ケアを専門的に行い支援員への指導による技術向上をめざす(口腔ケア担当支援員の配置)

【現在雇用施設】（五色精光園・丹南精明園・出石精和園）

ウ 「経口維持加算」「口腔衛生管理（体制）加算」の取得をめざす（高齢施設）

加算名	現在取得施設
経口維持加算	万寿の家、たじま荘、くにうみの里 五色・サルビアホール(ユニット型)
口腔衛生管理体制加算	万寿の家、たじま荘、丹寿荘、くにうみの里 五色・サルビアホール(従来型)
口腔衛生管理加算	くにうみの里

(3) 看取りケアの取組

(高齢施設共通)

- 高齢者や障害者が、住み慣れた施設や地域で最期までその人らしく暮らせるように、ご本人やご家族の意向を尊重しながら看取りケアに積極的に取り組む
- 看取り指針に基づいた看取りケアの実践
- 嘱託医師や協力病院との連携
- 外部講師による看取りケア研修会の実施（各施設）
- 看取りケア実践報告会の実施（年 1 回）
 - ・ 高齢施設看護師連絡会主体で実施
- 看取り率等の目標設定

目標	平成 30 年度	5 年後の目標
看取り率	60%	80%
「看取り対応」説明率	100%を維持	

(障害施設共通)

- 嘱託医と看取りケアに向けた具体的な協働内容の話し合い
- 「看取り」の提供に関するガイドライン（指針）に沿った実施
- 看取りケア研修会の実施（各施設）
- 高齢施設看護師連絡会と障害施設看護師連絡会との連携・情報交換等

(4) 認知症ケアの充実（高齢施設共通）

○多職種連携による統一した支援の展開

毎月、多職種連携の重要性を意識したケアカンファレンス等を実施

○見守りシステムなどの福祉機器等を活用

早期に対応することで精神の安定に繋がられるような予防的支援に取り組む

○認知症介護実践者研修、リーダー研修等の計画的な受講の推進

高齢施設の各拠点に認知症介護指導者養成研修修了者が1名以上配置できるよう計画的に受講を進め、施設内の認知症ケアの指導を行うとともに、県主催の認知症介護研修等の講師として貢献

・認知症介護指導者養成研修

〔 受講日数 25 日間（愛知県 大府センター）+自施設実習 4 週間
受講要件 「認知症介護実践リーダー研修」修了者 〕

【平成 31 年度受講予定者数】

認知症介護指導者養成研修	1 名
認知症介護実践リーダー研修	7 名
認知症介護実践者研修	12 名

（認知症対応型通所介護共通）

○認知機能訓練（4 D A S）の実践

身体機能・認知機能・生活機能・認知症の行動・心理症状（B P S D）の4つの側面からアセスメントを行い、対象者を8つのタイプ（A～H）に分類してタイプに応じた認知症機能訓練を実施

(5) 事故や怪我の防止（全施設共通）

ア アセスメントの充実による事故リスクの減少

○ヒヤリハットの情報共有

施設内の全職員が情報を迅速に共有できる仕組みをつくる

○事故防止検討委員会の実施

事故の中身について、要因や事故発生までのプロセスを分析し、本質的な問題点を把握することで、事故を未然に防ぐことに繋げる

イ K Y T（危険予知トレーニング）の推進

介護・支援現場には沢山の危険が隠れており、その「危険」を日常から予知し、重篤な事故を起こさないようにする為のトレーニングを行います。

- ①現状把握－どんな危険が潜んでいるか
 - ②本質追究－危険のポイントを探る
 - ③対策樹立－あなたならどうするか
 - ④目標設定－私たちはこうする

以上を定期的に行い、常に何か危険が潜んでいないかを考える習慣をつけます。

(6) 個別支援の実践及び研究等の推進（高齢施設・障害施設）

施設の取組事例発表会を実施し、発表を通して職員の支援に対する気づきやモチベーションを高めるとともに支援の質の向上を図ります。

ア 「第17回職員研究・実践等発表大会」の開催

イ 障害施設の「支援の魅力」発表大会の開催

【平成30年度発表内容】

最優秀賞：「笑顔を作る支援」（赤穂精華園）

優秀賞：「充実した職業生活をおくるために～『はたらく』をサポートする魅力～」（五色精光園）

ウ 高齢施設の「夢を叶えるプロジェクト」発表大会の開催

【平成30年度発表内容】

最優秀賞：「電車にのりたい」（丹寿荘）

優秀賞：「妹に会いたい」（グループホーム村いちばんの元気者）

エ 全事協職員実践報告・実務研究論文への応募

【平成30年度受賞論論文】

佳作：「排泄ケアにおける取り組み～おむつ選びから考える心地よいケア～」（万寿の家）

佳作：「一人の利用者の最期を看取るといふこと～利用者の残された時間とどのように向き合うのか～」（出石精和園）

4 「ひまわりラボ・プロジェクト」を充実します

ひまわりラボにおいて事業団開発商品の製造・販売を推進します。

○ 骨盤モデルの量産化と筋電義手の着手

	平成31年度目標
骨盤モデル	120
筋電義手	※企業と着手に向けた調整



骨盤モデル



筋電義手

5 出石精和園でのB型事業所によるニュークックチル方式による食事提供を実施します

○ RakuRaku・B型事業所によるニュークックチル方式での食事提供

施設給食の安定的な提供環境の確保とともにB型事業のサービスメニューの拡充と収支改善に向け、施設内調理とニュークックチルを組み合わせた新たな食事提供方式による施設給食業務に取り組みます。

	平成31年度
児童寮	B型委託（ニュークックチル） （児童のみ昼食はクックサーブ）
第2成人寮	
成人寮	成人寮直営（クックサーブ）

※クックサーブ

現地の厨房で調理し提供すること

※ニュークックチル

加熱調理された食事を急速冷却した状態で食器に盛り付け、チルド保存し食事提供直前に再加熱して提供するシステム

6 赤穂精華園に障害児の入所機能を集約し、拠点施設として役割を担う質の高い障害児入所施設をめざします

(1) 成人施設への円滑な移行の推進（五色精光園、出石精和園）

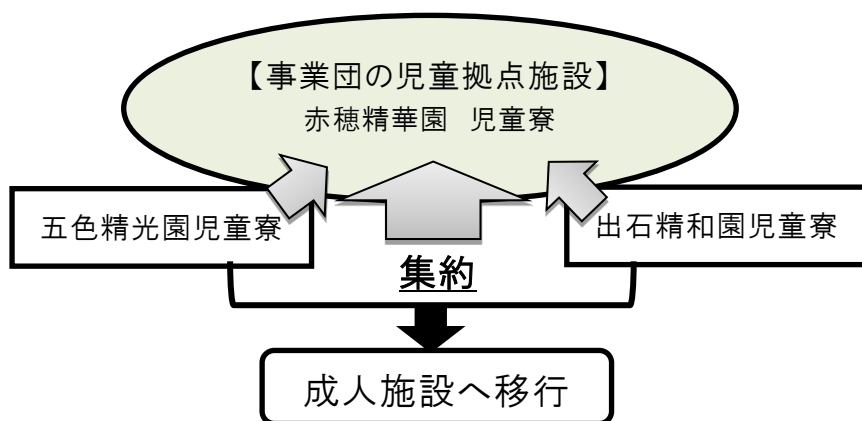
施設名	取組内容
五色精光園 (2020 年度)	○定員 30 名から 26 名に再編 ○成人施設の移行に係る居室等の整備及び移行準備
出石精和園 (2021 年度)	○「児童寮・第 2 成人寮再編整備検討委員会」の定期開催

(2) 質の高い障害児入所施設の構築（赤穂精華園）

○児童拠点施設の取組

障害児の入所施設の拠点施設としての役割を担い、質の高い支援を行います。

- ・近隣大学等や清水が丘学園からの心理療法士の派遣を受け、専門的な知識や技術の向上に努め、職員の体制強化を図る
- ・「マカトンサイン」を取り入れたコミュニケーションの幅を拡げ、より専門性の向上をめざす
- ・児童関係職員の資質向上に向けた実践研修、交流会の開催

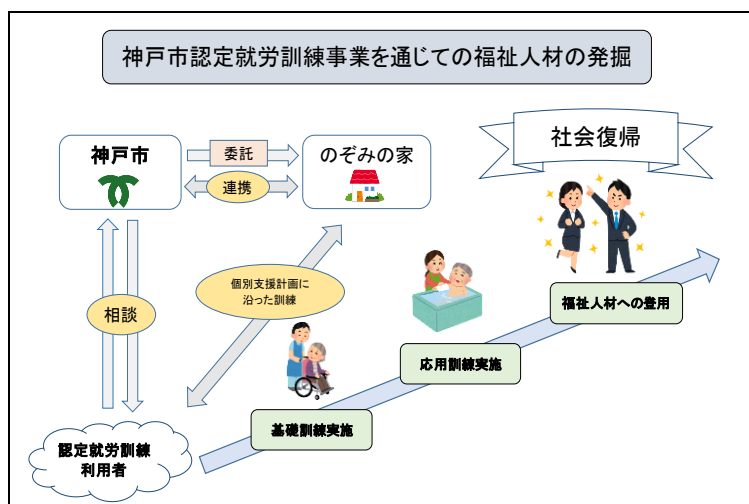


7 地域で自立した生活をめざします

○のぞみの家の取組

神戸市認定就労訓練事業を通じての福祉人材を発掘します。

- ・神戸市西区（一部明石市含む）在住の生活困窮者に対して状況に応じて就労体験する場を提供
- ・施設屋内外の清掃、利用者支援補助等に参加し就労体験の機会を設ける
- ・就労訓練場所をのぞみの家だけでなく、総合リハビリテーションセンター内の他施設とも連携し、訓練内容の充実を図る
- ・就労体験を通じて対象者の意欲向上、社会復帰への手助けを担う

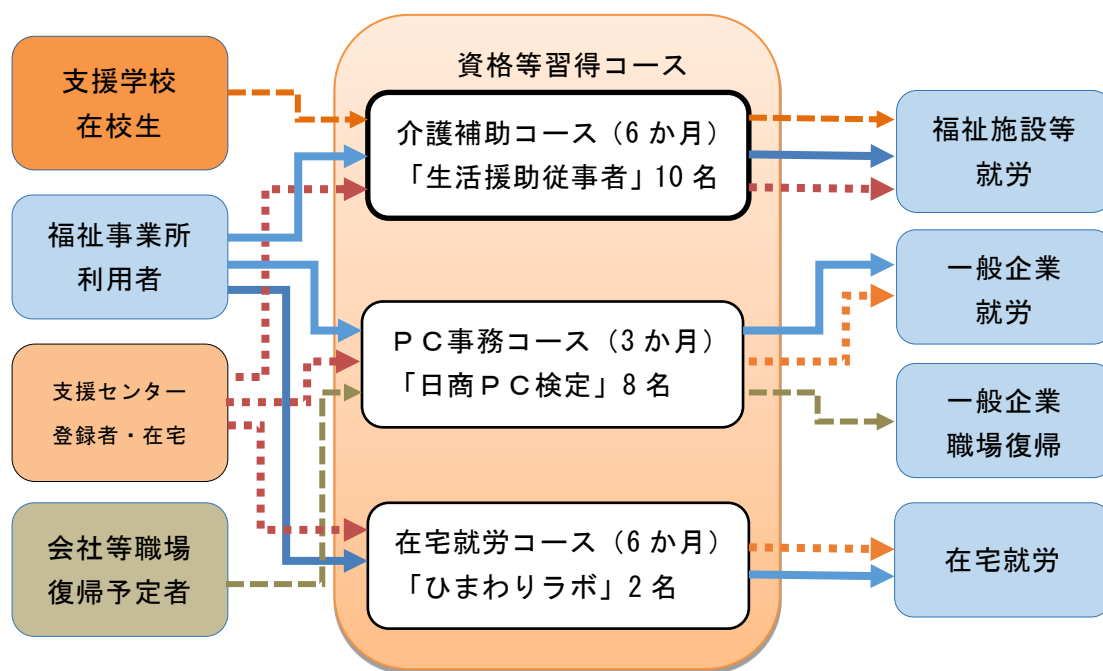


8 障害者の資格取得による就労を促進します

○職業能力開発施設の取組

即戦力として活躍できるよう人材育成を図ることで就労を促進します。

- ・知的障害者には介護補助業務にかかる「生活援助従事者」の資格取得
- ・高次脳機能障害者にはP C事務に向けた「日商P C検定」
- ・在宅就労を希望する身体障害者への技術習得等、学びの機会の創設
- ・清掃補助員基礎訓練の実施と、兵庫ビルメンテナンス協会との連携によるビルメンテナンス技術習得訓練事業に取り組み、清掃現場への就労を継続的に促進



○障害者就業・生活支援センター事業の実施（五色精光園、赤穂精華園、三木精愛園）

地域の障害者雇用・就業支援ネットワーク等を活用し、障害者の就業及び付随する生活面の支援を行うことで障害者の雇用・就業及び職業的自立を促進します。

（各センターの事業内容）

- ・雇用安定等事業
- ・主任職場定着支援担当配置（三木精愛園のみ）
- ・生活支援等事業
- ・障害者雇用就業・定着拡大推進事業
- ・職業紹介事業
- ・ジョブコーチ

9 就労継続支援B型事業の利用者工賃の向上

工賃向上によって、利用者が就労に対するモチベーションを維持・向上できるよう、生産活動収入の増を目指して事業を展開します。

- ・生産活動収入と障害福祉サービス等報酬を切り離して、工賃を設定
- ・上位の報酬単価が得られるよう生産活動収入の増をとおして工賃を向上

【就労継続支援B型事業所における平均工賃】

(単位：円)

施設名		H29(実績)	H30(見込)	H31(計画)
あけぼのの家		28,407	30,000	30,500
小野福祉工場		29,423	30,000	30,500
出石精和園	RakuRaku	17,985	20,006	20,100
	ひまわりの森	10,169	10,000	10,100
	笑顔の森むらおか			8,000
五色精光園	あゆみの部屋	25,520	25,570	25,600
	コスモス	23,820	23,880	23,900
赤穂精華園	やまびこ寮	10,794	10,325	10,700
	有年	17,346	15,484	17,800
丹南精明園		14,504	14,700	15,000

10 地域移行を推進します(小野起生園)

(1) サービス事業所と連携して地域移行への働きかけの実施

小野起生園の施設利用入所者のうち、身体障害者の方の地域移行について、相談支援専門員等が利用者ニーズを引き出します。

(2) 入所定員見直しに向けた受入準備を促進

五色精光園児童寮の成人施設への移行に伴い、定員を36名から40名にもどし、重度者の入所を促進します。

	現行	2020年4月	増減
小野起生園	36	40	+4
五色精光園	30	26	-4

11 介助犬及び聴導犬認定等事業を実施します(自立生活訓練センター)

介助犬等の認定指定法人、訓練事業者として適正に認定事業を実施し、介助犬等の普及促進を図ります。

- ・当センターで認定した介助犬等の活動状況をホームページで紹介
- ・福祉・医療関係者を対象とした施設見学会において、制度や施設機能についての情報提供
- ・日本介助犬協会主催のイベント(愛知県)や、国立障害者リハビリテーションセンター学院の研修会(埼玉県)等に参加することで、身体障害者補助犬を取り巻く環境等に関する最新状況の知識を習得

【認定件数等】

(単位：件)

		H15～19年度	H20～24年度	H25～29年度	H30年度	合計
介助犬	認定	10	7	8	0	25
	取消	1	6	6	1	14
聴導犬	認定	2	1	0	0	3
	取消	0	1	1	0	2
合計	認定	12	8	8	0	28
	取消	1	7	7	1	16

※平成31年3月時点の登録頭数12頭(介助犬:11頭、聴導犬:1頭)

12 職員の「手話研修」を実施（全施設共通）

- 手話での自己紹介等ができることを目的に外部研修を受講
- 窓口での応対手話ができる職員の発掘と育成

（受講予定数）

平成 30 年度実績	平成 31 年度予定
18 施設 147 人	22 施設 180 人

13 地域リハビリテーション支援体制を推進します（総合リハ、西播磨総合リハ）

住み慣れた地域で、適時適切なリハビリを継続的に受けることができるよう、圏域内で完結するリハビリテーション体制の構築をめざす体制づくりや、市町における地域包括ケアシステムの推進に向けた取組を支援します。

- 市町において実施されるリハビリ専門職等の人材育成及やネットワーク化への支援及び、相互の関係づくり等コーディネートを実施
- リハビリテーション関連職種等の専門職研修会の実施
- 第 21 回兵庫県リハビリテーション・ケア研究大会の開催（2020 年 2 月 15 日（土））

14 児童相談所との入所調整、連携を強化します（清水が丘学園）

明石こどもセンター（平成 31 年 4 月）開設に伴う入所にかかる仕組みづくり等について連携を強化します。

15 こども発達支援センターの活動を強化します

（1）診療部門の体制強化

診療ニーズが順調に伸びていることを踏まえ、常勤の小児科医を診療所長として迎え、かつ、非常勤の児童精神科医（週 1.5 日）の継続により、診療体制の充実と待機患者の解消を図ります。また、地域との調整を要する困難事例が増加していることから、診療以外の事業でのアウトリーチの充実を図ります。

（2）診断・診療、療育（リハビリ）の実施

- 診療：初診 2～3 件／日程度、再診 17～18 件／日程度（療育も含む）
計 20 件／日
- 診療日：週 5 日、月曜日～金曜日（2 診体制）
- 標榜科目：小児科、児童精神科（非常勤医師 週 1.5 日）
- 診療内容：診断・診療、心理検査・アセスメント、療育

（3）発達障害専門医療機関等ネットワークの構築

こども発達支援センターを中心とした発達障害にかかる医療機関等のネットワークを構築し、診療・支援が可能な医療機関の確保を図り、発達障害児者とその家族に対する医療支援体制の整備を図ります。

- 医師の育成
 - ・かかりつけ医を対象とした伝達研修の講師を継続し医師の育成を図る
 - ・センターでの診療への陪席や希望先への医師派遣等指導助言体制を構築
- 検討会等の実施及び参画

- ・発達障害にかかる診療、療育を行う医療機関等で、困難事例を共有する検討会等を実施
 - ・他の医療機関等が実施する検討会等にも積極的に参画
- 専門コーディネーターの配置

16 生活訓練を拡大します（おおぞらのいえ）

現在、高等部の児童を対象に、買い物等の社会経験を増やし金銭管理能力を高めることを目的に実施している生活訓練を全児童に拡大し、日常的に近隣外出や買い物の機会を増やし、個人の年齢や心身状況に応じた支援を行います。

経費：措置児童には生活訓練費を支給（契約児童は預かり金で対応）
 高等部（月額：1,000円）単独外出、金銭自己管理をめざす
 中学部（月額：500円）単独外出練習、金銭自己管理をめざす
 小学部以下（月額：300円）同行外出、買い物体験、金銭職員管理

17 セラピスト等の医療専門知識・技術を利用者への支援に活用します

○セラピスト等の指導、助言により利用者の身体機能向上に取り組む

施設名	派遣元	内容	頻度
のぞみの家	万寿の家 OT 総合ハ地域支援課 PT・OT・ST	職場内研修・個別指導	年6回
小野起生園	総合ハ地域支援課 PT・OT・ST	職場内研修・個別指導	年3回
出石精和園	出石医療センター PT	個別指導	月2回
	総合ハ地域支援課 PT・OT・ST	職場内研修・個別指導	年3回
五色精光園	淡路白寿苑 PT	個別指導（生活介護のみ）	月3回
	総合ハ地域支援課 PT・OT・ST	職場内研修・個別指導	年2回
赤穂精華園	神戸学院大学 PT	個別指導	月3回
	西播磨病院 PT・OT・ST	職場内研修・生活リハビリプログラム・個別指導	年3回
丹南精明園	総合ハ地域支援課 PT・OT・ST	職場内研修	年3回
	非常勤 PT	個別指導	月2回
三木精愛園	総合ハ地域支援課 PT・OT・ST	職場内研修・個別指導	年2回
万寿の家	所属 OT	個別指導	自施設
	総合ハ地域支援課 PT・OT・ST	職場内研修・個別指導	年2回
朝陽ヶ丘荘	西播磨病院 PT・OT・ST	職場内研修・個別指導	年10回
	西播磨病院 音楽療法士・園芸療法士	音楽療法・園芸療法	年9回
たじま荘	但馬長寿の郷 PT	職場内研修・個別指導	年6回
ことぶき苑	但馬長寿の郷 PT・OT	個別指導	年3回
あわじ荘	総合ハ地域支援課 PT・OT・ST	職場内研修	年3回
	所属 PT	個別指導	自施設
丹寿荘	総合ハ地域支援課 PT・OT・ST	職場内研修・個別指導	年3回
	非常勤 PT	個別指導	月4回（本体） 年6回（デイ）
	非常勤 音楽療法士	音楽療法	月1回（本体）月1回（デイ）

くにうみの里	所属 OT	個別指導	自施設
	総合リハ地域支援課 PT・OT・ST	職場内研修・個別指導	年 2 回
五色・サルビアホール	総合リハ地域支援課 PT・OT・ST	職場内研修・個別指導	年 4 回

18 立雲の郷認知症デイサービス等利用者への食事提供体制の充実

出石精和園の「楽々庵」朝来店の廃止に伴い、これまで以上に利用者に温かくおいしい食事を提供するため、直営による食事提供体制の充実を図ります。

19 在宅ケアステーションで移動支援事業を開始します（地域ケアリハ）

訪問看護ステーションを利用中の利用者のニーズに対応するため、散歩や買い物などの活動の幅を広げることを目的として、リハビリテーションの視点も踏まえた移動支援を活用し、訪問看護と訪問介護の連携を図ります。

20 利用者の重度化に対応する「見守りセンサー」等を導入します（高齢施設共通）

特別養護老人ホームで「見守りセンサー」を導入し、居室での様子を確認することで、利用者の転倒等による事故予防及び安全・安心を確保します。

（単位：台）

施設名	所有数	増設予定数
万寿の家	8	※整備に合わせて導入
朝陽ヶ丘荘	0	4
たじま荘	0	6
あわじ荘	4	2
丹寿荘	0	6
くにうみの里	1 0	4
五色・サルビアホール	0	2